

防災VG定期総会報告

防災だより

第19号

平成30年2月15日発行

関ヶ谷自治会 防災部
 防災ボランティアグループ
 *防火チーム
 *情報・通信・電機チーム
 *医療・介護チーム
 *食糧・物資チーム
 *防災資機材取扱チーム

自治会館784-4447

平成29年度の活動実施報告・平成30年度の活動計画案

防災VG 代表 徳岡正彦

1月20日(土)西金沢コミュニティハウス・多目的室を中心に開催

自治会から山本会長・乙川副会長・三上防災部長のお三方に出席頂き、山本会長からは別紙のように丁重且つ心強いご挨拶を頂戴いたしました。当日はお寒い中、出席者は50名(うち女性21名)と多くの方々に参加頂き、本当にありがとうございました。前半は議題を中心に

『平成29年度の活動実施報告』・『平成30年度の活動計画案』を議長(代表)及びスキルチームリーダーが報告を、『新役員体制等』も討議し、全て承認されました。質疑応答では5名の方々の提案・感想等があり、今後は提案内容を役員会で討議・検討して行きたいと思っています。



総会のお話に聞き入る防災ボランティアの皆さま

防災VGの現況は

①防災VGはH22年11月に発足し、今年で7年2ヶ月となりました。現在、防災VGは92名(昨年は14名)、内女性39名で42%です。
 ②一昨年発足しました5つのスキルチームの活動も活発化し、登録者は複数登録された方々を含め、延べ92名となりました。
 ③年末に実施した「災害時要援護者」アンケートでは、災害時要援護者数は150軒189名で昨年比+20軒+19名と増加しています。

■防災VGの主な活動は全員で行う「災害時要援護者安否確認」と5つの「スキルチーム」の活動の2本立てです。
 ①7月には、初めて非常食体験を兼ねた「懇親会」を行いました。参加されたメンバーからは大変好評でした。来年も是非開催をとの声が多くありました。ただ、残念ながら参加者は31名と少ない感じでした。
 ②昨年度は自治会と共同で新たな防災・減災活動を計画し、実行しました。9月に初めての「防災アンケート」を行い、629件の回答がありました。大地震について不安を感じている人が多い反面、自分の命は自分で守るための自助「備え度・防災アクション」は必ずしも十分でない等、意識と対策のギャップがある事が顕在化しました。
 自治会と防災VGはそのギャップを少しでも埋めるべく、
 ③具体的な対策・取り組みを行なうて参りました。その第一歩として
 ◆災害時火災防止に大きな威力が期待される「感震ブレーカー」の斡旋を行い、77軒の申し込みがあり新たに設置されました。

防災VG発足7年2か月

昨年は九州北部豪雨や数度に渡る台風など自然災害が多くあり、多くの被災者が出ました。益々防災・減災のVG活動の必要性・重要性を感じております。

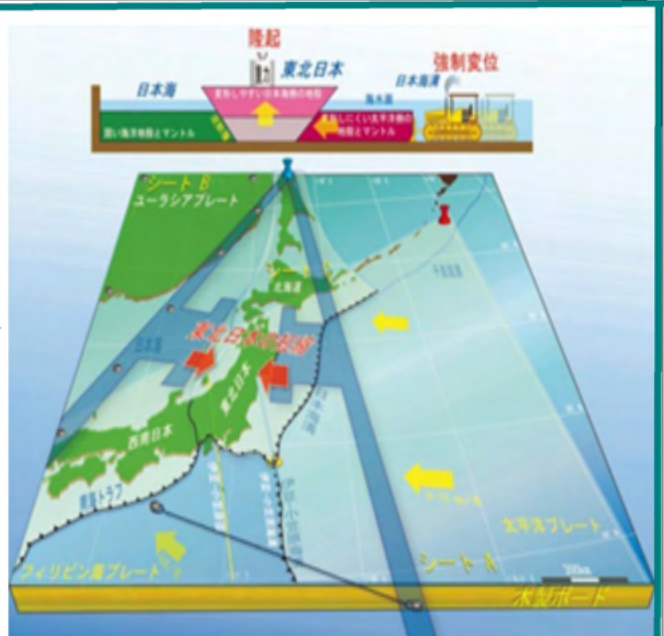
新年に思う防災活動！

防災ボランティアグループ総会に参加して

関ヶ谷自治会会長 山本 覚

平成29年度防災ボランティアグループ(以下「防災VG」)の定時総会、おめでとうございます。
 今年、阪神・淡路大震災から22年、東日本大震災から6年、熊本大地震から1年、この22年間で記憶に残る災害だけでも3回も大規模地震が発生し多くの被災者が出ています。災害は忘れたころにやってくる”は大昔の話で、21世紀では“忘れないうちにやってくる”と心得て備えを万全にしておく必要を強く感じていますし、我が家なりの対策を取っています。

防災と一口に言っていますが家具の転倒防止から感震ブレーカー、スタンプパイプ、飲料・食料の備蓄まで間口が広く、奥行きも深いため、家庭だけの知識では不安があります。その不安を少しでも緩和してくれる存在が、防災VGではないでしょうか。
 防災VGが果たす役割は、減災及び小災への対応と、災害時要支援で



最近地震関連のニュース多し!

1月5日午前11時ごろ、緊急地震速報が出た。原因は2つの地震を一つとコンピュータが判断した誤作動と解った。翌6日にも横浜地方震度4クラス地震があった。昨年から関東地方に地震の発生が多いことが分かる。

自助・共助・公助
 7 2 1



は体育館の床に雑魚寝をするもの。非常時にはせいたくを言わず我慢しなければいけない、そんな「常識」からいったん脱する必要があるのではないか。」と締めくくっていました。
 今年度の自治会防災部と防災VGとの防災連携活動は、避難訓練時の対策本部立ち上げ時の情報機器の稼働訓練や初めての防災アンケートの実施と、感震ブレーカー斡旋販売を行いました。
 これらも今までの常識から脱した活動ではないかと自画自賛しています。来期についても、地に足を着けた新しい活動と、従来活動のグレードアップを期待しています。



体験してみれば、思ったより簡単！ スタンドパイプの操作

防火スキルチーム主催の 防火訓練に参加して

防災V G 第1G 陣座 昭

11月21日、晴天の下、10時より貯水池の一角でスタンドパイプを利用した防火訓練が実施されました。

約50名の住民が集まり、まず、釜利谷消防所・長崎所長の指導の下、スタンドパイプの使用法、A・消火栓取付B・ホース担当、C・放水担当の3班に分かれ、集まった全員がそれぞれの役割を経験しました。



最初の班はマンホールの蓋を開ける所作から、放水、蓋閉めまで6分かかったが、最後の方の組は3分で終了した。やはり実際に目で見て、体験することがいかに大切か実感した。

また、オプシヨンとして消火栓の水を水道水として利用できるように、蛇口も用意されていることを知りました。体験してみれば、思ったより簡単であったが、問題はこの広い住宅に、スタンドパイプは1台しかないがゆえに、火災の現場にこれを運び役立てるには時間が掛かりすぎる、せめて6台位置けば、初期消火に効果的に役立つのではないだろうかと感じました。最終和やかで楽しく訓練を終えることが出来、準備してくられた防火チームには感謝の拍手が送られました。



【どんど焼き】でお飾りの櫓から飛び火による火災を防ぐために、毎年金沢消防団第6分団が奥座公園の周辺の木や落ち葉などに放水活動を行っていただいております。

今年はその補助放水として、第6分団の放水後、自治会所有のスタンドパイプ（初期消火器具）が担当、後半はボランティアで行いました。筒先は先ず親跡消防ガールが担当、後半はボランティア

が初登場しました。担当は日頃から防火訓練をしている「防火チーム」がアの中学生から妙齢の？ご婦人まで10名ほど参加、長崎消防所長指導の下、かわるがわる筒先を持つて、筒先の調整で放水の飛散や水圧

でにないPRが出来ました。今後とも万が一のことに備え、地道な防火訓練をおこなっていきます。その際は訓練場所近くの住民の方、ぜひ参加・体験をお願いいたします。



V G 防火チーム

防災部・防災V Gが行った感震ブレイカー「ヤモリ」の販売が終了し、昨年12月25日に自治会館で取り扱った販売会の株式会社シーエスの担当者が、製品の引き渡しを行いました。

感震ブレイカーの普及活動・77世帯からの申し込み 防災部長 三上 典彦

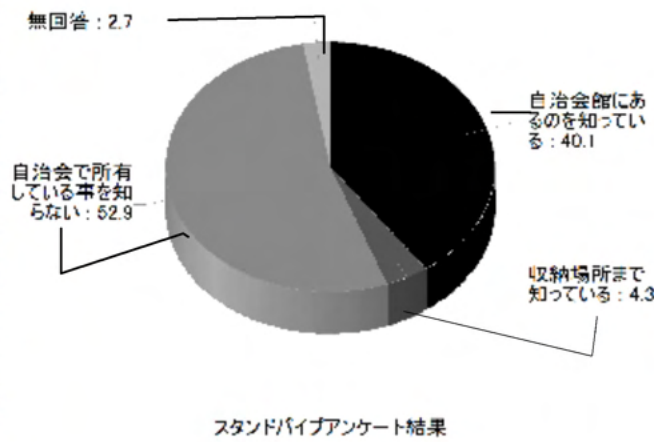
それに続いて購入者の募集を実施するなか、販売終了によって感震ブレイカーを普及させる活動に取り組みできました。その結果、配電盤にブレイカーを固定する必要があるので、ヤモリ・デ・リモートという製品を普及します。リモートタイプの申し込みは10件でした。



自治会員77世帯の皆様から購入申し込みを受けました。家庭用の配電盤には、従来の蓋なし配電盤と、新しいタイプの蓋付き配電盤があり、感震ブレイカーもそれぞれタイプに合

スタンドパイプアンケート結果

- 1 自治会館にあるのを知っている 40.1%
- 2 収納場所まで知っている 4.3%
- 3 自治会で所有していることを知らない 52.9%
- 4 無回答 2.7%



スタンドパイプアンケート結果

上記の図がスタンドパイプについて、住民の皆さまの認知状況です。目指すところはやはり認知率100%と皆さんが訓練に参加いただき、スタンドパイプの有効性を理解していただくことです。以上のことを課題として、今後の防火訓練プログラムを組み立てていきます。

「スタンドパイプを使った消火訓練」 防火チーム

スタンドパイプ式初期消火器具は大規模地震時に地域で発生した火災の拡大を防ぐために、地域住民の協力により初期消火活動を行うための器具で、消火栓に直接接続して水を放出します。

- 実施日時：平成30年2月25日（日） 11:45～12:45
- 実施場所：辻公園

釜利谷消防出張所 長崎所長と所員のご指導の下、スタンドパイプの体験活動です。「合同会議メンバー」と辻公園付近の方々、ご家族と共に是非ご参加ください。

次回防災だより：H30・5月15日予定

「AEDを使つての救命活動」 医療介護チーム

釜利谷消防出張所 長崎所長と所員のご指導の下、①AEDを使つての救命活動②心臓マッサージによる救命活動の訓練を行います。

- 実施日時：平成30年3月18日（日） 10:45～11:45
- 実施場所：西金沢地域プラザ「多目的室」 「関ヶ谷クラブ」と「医療介護チーム」とのコラボです。
- ◆ 5月 要援護者宅訪問：地区リーダーと民生委員（新会長の挨拶状持参）

